

薬学部・薬科大学 訪問

Report 16

神戸薬科大学 薬化学研究室

話し手：棚橋 孝雄 教授

Takao Tanahashi

六甲山の麓にある神戸薬科大学は、目の前に広がる神戸港や街の風景とは対照的に、静かな山の気配に包まれています。今回は、昨年まで学長を務められた棚橋孝雄先生に、6年制への移行に伴う新体制づくりの取り組みや、学生・同窓会との強い絆についてお話を伺いました。



棚橋孝雄教授



80周年記念館(6号館)の食堂はカラーリングが美しく、開放的な窓から神戸の街並みが一望できる。

学校メモ

- ◇昭和5(1930)年 前身の神戸女子薬学校の設立
- ◇昭和7(1932)年 神戸女子薬学専門学校設立
- ◇昭和24(1949)年 神戸女子薬科大学の設置
- ◇平成6(1994)年 男女共学制となり神戸薬科大学と名称変更
- ◇平成18(2006)年 薬学部6年制教育開始
- ◇平成25(2013)年 80周年記念館(6号館)竣工
- ◇1学年の定員 薬学部・薬学科270名。現在の在校生は薬学科1,750名、大学院修士課程6名、博士課程16名(内2013年4月の入学人数は学部289名、大学院9名(修士課程3名、博士課程6名))

社会のニーズに応えられる薬剤師を目指して

神戸薬科大学の前身は、1930年に設立された神戸女子薬学校です。その2年後の1932年に神戸女子薬学専門学校となりましたが、当時は神戸以西で初の女子の薬学教育機関でしたので、他県からも自立を目指す女子学生たちが集まりました。そこから数え、2012年に創立80周年を迎えました。その間、1994年には男女共学となって神戸薬科大学と名称を変更、2006年4月には薬学部6年制の教育が始まり、そしてこの春に6年制で2期目の卒業生を送り出したところです。

私は学長になる以前の教務部長時代から6年制導入に取り組んできました。早期体験学習をはじめ共用試験、長期実務実習と何をやるにしても初めてのことで、本学の教員と会議を重ね、また他校や行政などと協議しながら体制の整備を進めました。ただし薬学教育の改革はまだ終わっていません。社会の医療ニーズにさらに応えるために、神戸大学医学部学生と共同で行うチーム医療教育、在宅医療に参画する薬剤師やがん専門薬剤師の養成、薬剤師レジデント制など、臨床現場と協力しながら、臨床応用能力の醸成のために多様な教育プログラムを行っています。また、医薬品臨床開発や創薬研究に貢献する人材養成にも努めています。

有機化学の研究を通じて学ぶ科学者の視点

私の専門は、イソキノリンアルカロイドをはじめとして、植物や微生物に含まれる天然物を単離・構造決定、さらに化学合成し、それらの生物活性を調べる薬学の基礎研究です。戦後間もないころから続いている研究室ですが、技術の長足の進歩によって、以前では発見できなかった興味深い物質が見つかるようになりました。

しかし日々の研究は地道なことの積み重ねであり、結果がすぐに出るわけではありません。それでも研究室の学生には、研究に取り組んだ過程から論理的な考え方や実験手順の計画、論文の検索など、科学者として必要なことを学び、将来に役立ててもらいたいと思います。

大学と同窓生との強い絆

本学は単科大学ということもあって規模が小さいため、教員と学生の関係は近く、親しく交流しており、学生同士はもちろんのこと、学生と大学との間にも強い絆があります。それが同窓会の盛んな活動の原点となり、全国に17ある同窓会が離れたところからも母校を見守り、支援してくれていることに感謝しています。

本学では40年も前から生涯研修・卒後教育に力を入れているのですが、それも同窓会との綿密な連携があってこそ実現できたことです。先輩たちが社会で活躍していることは学生や私たちを元気づけてくれますので、今後も同窓生と大学がより強く連携していければと願っています。